COLUMN
コラム　萩原　智子



新しい年がスタートしました。皆さんはどんなスタートを切りましたか?

私は、1月8日に福島県で「萩原智子杯水泳競技大会」を開催しました。福島での大会は、2014年から始めましたので、今回で10回目を終えました。

東日本大震災以降、私に何かできないのか・・・と自問自答する日々。そんな時、「福島では外で遊ぶ子供が減り、運動不足による子供たちの肥満傾向率が上がっている。」と、当時、ニュースで知りました。そこで子どもたちの目標となる大会を目指し、福島の子供たちの運動機会を増やしたい!という思いから、福島での大会を開催してきました。

震災の影響で、福島の競泳レベルは、かなり落ち込みました。震災前2010年は全国大会に年間146人出場していましたが、震災後は33人に。現在は、少しずつ増加傾向になりつつあります。福島が元気になるには、子どもたちの活躍が必要不可欠。子どもたちのエネルギーが、地域の力になり、活性化していくと信じています。

大会の5回目までは、復興支援を目的としていましたが、6回目以降は、復興支援に加え、オリンピック選手の輩出を目標としています。大会終了後、小学4〜6年生を選抜し、強化合宿も行っています。私の力は、微力ですが、みんなが一緒に目標を目指せる場所、共有できる空間は大切だと思っています。

復興支援、競技会・合宿強化、地元オリンピアンとジュニアを繋ぐ、子ども達の夢が繋がる大会として今後も継続していきたいです。応援よろしくお願いいたします。

Profile
プロフィール

名　　前　萩原智子（はぎわら・ともこ）
生年月日　1980年4月13日
肩　　書　日本水泳連盟理事
　日本マスターズ水泳協会理事
　日本知的障害者水泳連盟副会長
　日本体操協会理事
出 身 地　山梨
出 身 校　山梨学院大学付属高等学校
　山梨学院大学
　山梨学院大学大学院

中学3年生時に、海外遠征カナダ選手権200m背泳ぎで、当時、日本歴代2位となる日本中学新記録樹立。
高校インターハイでは、200m背泳ぎで、3連覇達成。同年アジア競技大会では、個人、リレー種目で、3個の金メダルを獲得。
2000年シドニー五輪、200m背泳ぎ4位、200m個人メドレー8位入賞。2002年日本選手権では、100m、200m自由形、200m背泳ぎ、200m個人メドレーで史上初の4冠達成。「ハギトモ」の愛称で親しまれ、2004年現役引退。
5年の歳月を経て、2009年現役復帰宣言。復帰レースとなった新潟国民体育大会では大会新記録で優勝。
翌年2010年には、30歳にして日本代表に返り咲いた。同年、ワールドカップ東京大会で50m自由形、100m個人メドレーで、短水路日本新記録を樹立。
2012年2月のJAPAN OPENでは、50m自由形で短水路日本記録を樹立。
2013年6月、日本水泳連盟理事に就任。
2015年、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員に就任。
現在は、テレビ・ラジオ出演や水泳の解説のほか、自ら現場に行って取材を行い、ライターとしても活動の幅を広げている。
メディア出演のほかにも、これまでの人生経験をもとに講演活動を行うほか、改めて、自身を育ててくれた「水」に感謝し、水泳教室はもとより、「水の大切さ」や「水の教育」にも取り組む水でエデュケーション・コミュニケーションする「水ケーション」の活動にも注力している。また山梨県、福島県、愛知県で水泳大会「萩原智子杯」も開催している。

●投稿募集中

【会員紹介コーナー】
①A5判程度で、原稿と写真等を入れて構成してください。②団体等の名称、所在地（事務局または事務所）、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由です。④締め切りは特にありません。

【行事予定】
○主催団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等をお教えください。

きれい甲斐

No.95　JANUARY　2023

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。
環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし
事務局●〒400-8501山梨県甲府市丸の内1丁目6-1山梨県自然共生推進課内
TEL.055-223-1634　FAX.055-223-1781　✉shizen@pref.yamanashi.lg.jp
ホームページ　パートナーシップやまなし　検索
発行責任者●企画委員長　志　村　宏　司

R70　古紙パルプ配合率70%再生紙を使用しています

やまなし環境活動推進ネットワークフォーラムのご案内

環境パートナーシップやまなしでは、「やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」を（公財）やまなし環境財団と合同で開催します。

このネットワークフォーラムは、県内で環境保全に向けた活動を行っている企業・団体・個人等による活動発表を通じて、より多くの人たちが実践できる具体的な方法を考え合い、課題の解決に取り組んでいく機会とするとともに、参加者相互の情報交流とネットワークづくりの推進を図ることを目的としています。

今回は「脱炭素な未来へ〜山梨の企業と市民のチャレンジ〜」をテーマに、脱炭素に向けた取り組みを行っている企業・団体・学生の方にご出演いただき、オンライン開催でパネルディスカッションを行います。

多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

◆日　時　　令和5年2月23日（木）　13時〜　オンライン開催（Zoom）
◆参加費　　無　料
◆主　催　　環境パートナーシップやまなし、(公財)やまなし環境財団

プログラム

開会あいさつ	13:00〜13:05
主催団体の活動紹介	13:05〜13:25
パネルディスカッション	
パネリストの活動紹介	13:25〜14:05
ディスカッション	14:05〜14:45
閉会あいさつ	14:45〜14:50

○パネリスト
・株式会社 相川プレス工業・株式会社 仙洞田板金工業共同企業体
・株式会社 山梨中央銀行
・生活協同組合パルシステム山梨
・都留文科大学の学生サークル「しぇあはぴ」

参加申込　参加希望者は、環境パートナーシップやまなし事務局あてにＦＡＸまたはメールにてお申し込みください。

【Ｆ　Ａ　Ｘ】氏名、団体名等、メールアドレス、電話番号を記入した申込書（様式自由）をFAX：055-223-1781 に送信してください。
※ご記入いただいたメールアドレスにID・パスワードを送付します。

【メ　ー　ル】次のメールアドレスに氏名、団体名等、電話番号をご記入の上、メールを送ってください。
E-mail　shizen@pref.yamanashi.lg.jp

【申込締切】令和５年２月20日（月）

県民の日記念行事に出展しました

１１月２０日、小瀬スポーツ公園で開催された「県民の日記念行事」に環境パートナーシップやまなしが出展しました。

環境広場に設置した環境パートナーシップやまなしのブース内では、「エコライフお絵かき・川柳コンテスト２０２２」の入賞作品を展示するとともに、環境活動に関する普及啓発を行いました。



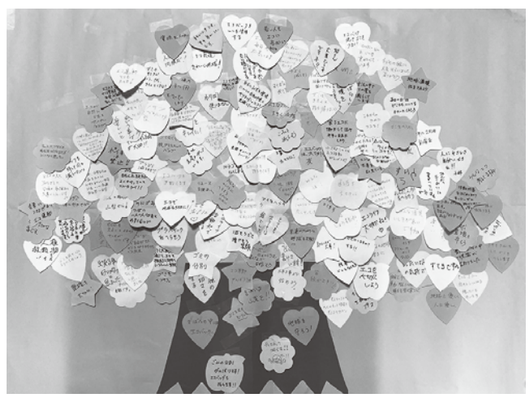






たくさんの方にご来場いただきました

環境パートナーシップやまなしのブースの隣では、（公財）やまなし環境財団が環境保全活動助成交付団体の活動紹介の掲示やエコバッグの配布、エコへのメッセージをお書きいただきました。いただいたメッセージにより、エコの木ができました。



エコの木



リレートーク発表団体紹介

認定NPO法人日本釣り環境保全連盟

～今の環境を次世代に引き継ぐために～

・２００１年に釣り場環境の悪化が叫ばれる中、全国の釣り場の環境を保全し、きれいで気持ちの良い釣り場を創造するために、このNPO法人は発足した。湖底に放置されたルアー等の人為的なゴミから環境ホルモンが溶け出し、放置された釣り糸や針が水鳥に絡まるなどの問題があります。このような問題を解決すべく、釣り人自らが中心となった水質保全活動が始動した。

・２０２１年には、「STOPマイクロプラスチック実行委員会」を立ち上げ、47都道府県及び、ベトナム、中国、韓国に支部を置き清掃活動を累計220回以上実施した。

『日本釣り環境保全連盟』の主な活動内容

①ダイバーによる手作業の湖底清掃　「STOP!マイクロプラスチック委員会」による清掃活動。

②環境にやさしい素材の釣り具　（自然分解される疑似餌）使用の啓発活動

③『フィッシング・エコ・リーダー』の育成　（環境保全の知識を持った釣り人の育成）

①釣り場の湖底に堆積している釣り具のゴミを回収すべく、ダイバーによる湖底清掃を2001年より開始。河口湖、琵琶湖など全国の湖沼（海）で実施し、河口湖においては湖底清掃実施回数は59回にのぼります。21年間に手作業で回収したゴミの総合計は河口湖だけで、約2.8t（2815kg）

「STOP!マイクロプラスチック実行委員会」47都道府県・ベトナム・韓国等累計220回以上の清掃活動を実施



ダイバーから陸上スタッフが、湖底のゴミを受け取る



湖底のプラスチック製のワーム



ベトナム支部



韓国支部

②環境やさしい素材の釣り具（自然分解される疑似餌）使用の普及啓発

・湖底に蓄積されるゴミ増加を止める為に、環境にやさしいポークルアーを使用した釣り体験、「釣りと環境保全を学ぶ!」を子どもゆめ基金の助成金を受けて実施した。環境保全講習、釣り教室、清掃活動を行う。

③環境保全の知識を持った釣り人の育成　フィッシング・エコ・リーダーが中心となり、清掃活動、釣り教室などを運営し、子ども達に指導をしている。









令和4年度からの新たなチャレンジ

環境省の「令和４年度脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業（うち、化石由来プラスチックを代替する省CO2型バイオマスプラスチック等（再生可能資源）への転換及び社会実装化実証事業）（海水・淡水中での生分解性を有するバイオマス複合プラスチック製ルアーの開発・普及促進事業」に採択され、令和4年度より、海水・淡水中で微生物により生分解されるプラスチック素材を用いたプラスチック製ルアーの開発を支援することになった。本事業においては、当該プラスチックの淡水・海水中における生分解性を検証する為、実際の淡水・海水中において当該プラスチックの生分解試験を行う。